

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成16年10月15日(金) 5校時
児童 男5名 女3名 計8名
指導者 阿部 奈津子

- 1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう
教材名 「サンゴの海の生きものたち」

2 単元について

(1) 教材について

この教材文は、日頃なじみ深いとはいえない海の中の共生について述べている。生き物のかかわり方について、記述に即して大事なところに気をつけて読むことをねらった教材である。また、鮮明な写真が本文とともに使われており、書かれている情報を十分に補い、学習活動を進める上で役に立つようになっている。

読み取った後は、登場した生き物になって、かかわりあっている相手にお礼の手紙を書く学習を行う。さらに、生き物についての読みものに興味をもってそれに関する本を読む活動へとつなげていくという構成になっている。

(2) 児童について

2年生8名は、昨年度のCRT検査結果の全国比を見ると、特に読むことの力(順序などを考えながら読むこと、語句や表現に注意しながら読むこと)が落ちている結果が見られた。

子どもたちは、5月には、時間的な順序に気を付けて読む説明文「タンポポのちえ」を学習した。子どもたちは、タンポポについて興味・関心をもって学習することができた。タンポポに隠されている知恵について、挿絵をもとに読み取る活動を行ったが、なかには順序を押さえた読みとりがなかなかできずにいる児童もいた。そのため、時間的な経過を示す言葉や挿絵に何度も戻り、「いつ・何が・どうなる・わけ」を考えさせたり、動作化を行ったりした結果、タンポポに隠されている知恵を見つけることができるようになっていった。

しかし、いまだに文章の内容を理解するのに時間がかかる子どもや、文章を思いこみで読む子どももいるので、本単元でも文章を正しく読み取るということを意識して何度も教科書を読むことや教師の支援によって、内容を読みとらせていきたい。

(3) 指導について

本単元では、読み取りをより確実にするため、実際に自分たちがクマノミやイソギンチャクなど海の生きものになって自分の体を動かしたり、お話ししたりする活動を取り入れた。

教材文では文頭で「たがいに、やくに立つようにかかわり合って、くらししている…」と話題提示されている。本単元の指導にあたっては、2つの具体的事例について写真を効果的に活用しながら、記述に即して読み取らせ、ねらいに迫りたい。また、たがいにどんなかかわり合いをしているのかを読み取るなかで、好奇心をかき立てながら新しい知識に触れさせていくようにしたい。それによって、他の生き物についての興味・関心へとつなげていきたいと考える。

また、本単元名は、「だいじなところに気をつけて読もう」であるが、児童の発達段階を考慮し、説明されている大体の順序を読み取らせたい。問題提示部分に対する答えに当たる説明を正確に読み取らせたい。なお、本単元で学習した読みとりの力を二年下の説明文「うごくおもちゃを作る」の学習に生かせるようにしていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 目標

- ・海の生きものたちの暮らしに興味をもち、大事なところに気を付けて読むことができる。(読イ)

(2) 評価規準

- ・生きものたちの暮らしに興味をもち、楽しんで読んでいる。 (関)
- ・生きもののかかわり方について、説明の順序に気を付けて大体の内容を読みとっている。 (読イ)
- ・登場した生きものになって、かかわり合っている相手にお礼の手紙を書く。 (書ア)
- ・登場した生きもので、初めて知ったことを簡単に発表する。 (話聞ア)

4 単元指導計画(12時間)

次	時	主な学習活動	指導目標
1	1	・グラビア写真を見ながら全文を読んで、「サンゴの海の生きものたち」のイメージを広げ、初発の感想を書く。	・教師とともに、全文を音読することができる。初めて知ったことや、不思議に思ったことなどを書くことができる。
2	2	・学習のめあてを知り、かかわり合う魚たちを確かめる。	・海の生きものたちについて学習を知り、かかわり合う魚たちを書くことができる。
	3	・イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取る。	・イソギンチャクのしょく手とクマノミの体が、ねばねばしたえきでおおわれていることを見つけることができる。
	4	・イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取る。	・イソギンチャクとクマノミが互いに守り合っていることを読み取ることができる。
	5 本時	・ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取る。	・ホンソメワケベラが大きな魚たちの体や口を掃除し、その掃除は自分の食事のためだといつかかわり合いを読み取ることができる。
	6 7	・海の生きものたちのかかわり合いをまとめる。	・イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚になって説明したり、動いたりすることができる。
3	8 9	・サンゴの海の生きものたちになって、かかわり合っている相手にお礼のカードを書く。	・イソギンチャクとクマノミ、大きな魚とホンソメワケベラというように、きちんとかかわり合っている相手にお礼の手紙を書くことができる。
4	10 11	・図書室に行って生きものの本を探し読むことで、読書に広げる。	・生き物の本を探して読み、簡単に感想を書くことができる。
	12	・読んだ本の紹介をする。	・読んだ本の紹介を大きな声で発表することができる。 ・友達の発表に感想を持つことができる。

5 本時の指導(本時5/12)

(1) 本時の目標

ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取り、まとめることができる。

(2) 本時の評価規準

ホンソメワケベラと大きな魚がたがいにかかわりあっていることを読み取っている。

(3) 研究主題との関連

説明文教材を正しく読み取るための指導法の「書かれていることの大体を理解させる方法や手順 (イ)挿絵と文章を照応させながら読ませる。(エ)順序ごとの内容を叙述に即して正確に読み取らせる。」との関連で指導する。

記述の内容に即して、ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いを写真と文章を照応させたり、前時の内容を生かしたりしながら互いにかかわり合っていることを読み取らせたい。

(4) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点と評価
つ か む 5 分	1 前時の学習について想起する。 2 学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ホンソメワケベラと大きな魚のか かわり合いをまとめよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時でイソギンチャクとクマノミのかかわり合いを学習したことを、指導用掛図や前時の吹き出しを使って想起させる。
見 通 す 5 分	3 学習の見通しを立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 本時はホンソメワケベラと大きな魚とのかかわりあいを読み取る学習であることを知らせ、学習する段落の確認をさせる。 教科書の写真や7段落からホンソメワケベラがどれかを確認させ、大きな魚の口の中で何をしているのか読んでいくことを見通しとして意識させる。 かかわり合いが8段落・9段落に書いてあることを見通させる。
学 び 合 う 30 分	4 学習場面を音読する。 (P 7 7 L 1 1 ~ P 7 9 L 7 まで) 5 ホンソメワケベラが大きな魚に食べられないわけを読み取る。 ・わけがかいてあるところに線を引く。 6 どうしてホンソメワケベラがそうじをするのか確認する。 ・ワークシートに書きこむ。 7 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いをまとめ、説明する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に気をつけながら音読する。 写真のホンソメワケベラは何をしているのか考えさせる。 「でも」「そうじをしてくれる」「～いるからです」の言葉に着目させ、写真を提示し、わけを考えさせる。 とった虫が食べ物になっていることをワークシートに書き確認させる。 「でも」「ただそうじを...」「...のです」の言葉に着目させたり、個別のワークシートを配ったりして、ホンソメワケベラがそうじをするわけを考えさせる。 【評】 どうしてホンソメワケベラがそうじをするのか読み取れているか。 読み取ったことを海の生きものはかせになって、説明させる。
ま と め る 5 分	8 自己評価をする。 9 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 、 、 で学習を振り返らせる。 海の生きものたちのかかわり合いをまとめることを知らせる。

(5) 具体の評価規準

- A ホンソメワケベラと大きな魚がたがいにかかわりあっていることを読み取り、自分の言葉で説明している。(読イ)
- B 大きな魚たちは、ホンソメワケベラがきれいにそうじしてくれるのを知っていることや、そうじをしてとった虫がホンソメワケベラの食べ物になるというかかわり合いにサイドラインをひいたり、ワークシートに書いたりしている。(読イ)
- 【C児への支援】 ホンソメワケベラと大きな魚がたがいにかかわりあっていることが読みとれないでいる児童には、机間巡視を行い、再度写真に着目させたり個別にワークシートを渡したりしてホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを考えさせるよう支援する。(読イ)

(6) 板書計画

<p>サンゴの海の生きものたち</p> <p>ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いをまとめよう。</p>	<p>ホンソメワケベラが(大きな魚)の口の中に入っていきます。</p> <p>でも</p> <p>食べられることは、(ありません)。</p> <p>大きな魚たちは、(きれいにそうじをしてくれる)のを知っているからホンソメワケベラは(そうじ魚)とよばれています。</p> <p>でも</p> <p>ただそうじをしているわけではありません。</p> <p>そうじをして(とった虫)が(食べもの)になるのです。</p> <p>まとめ</p> <p>ホンソメワケベラが大きな魚に食べられないわけは、大きな魚たちが体や口の中についた虫をホンソメワケベラが(きれいにそうじをしてくれる)のを知っているからです。</p> <p>ホンソメワケベラは、そうじをして(とった虫)を(食べもの)にしています。</p>
--	--

イソギンチャクとクマノミの
かわり合いをまとめよう。

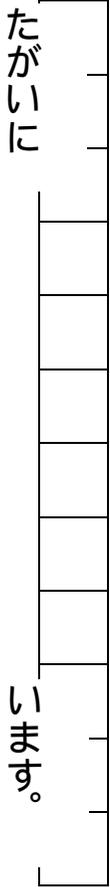
は、イソギンチャクを食べる魚を

しまいます。



と

は



たがいに

います。

たがいに…イソ

ギンチャクもクマノミも



まもり合う…イソギンチャクはクマノミをまもること。
クマノミはイソギンチャクをまもること。